

会 派 代 表 質 問

(通 告 内 容)

令和元年第3回

那須塩原市議会定例会

(6月)

【代 表 質 問 者】

【6月13日(木)】

那須塩原クラブ

議席 10番 佐藤 一則 議員

公明クラブ

議席 4番 田村 正宏 議員

敬清会

議席 20番 相馬 義一 議員

志絆の会

議席 18番 眞壁 俊郎 議員

受付番号	令和 元年 5月 22日
第 / 号	⑩ 午後 9時 48分受付

令和 元年 5月 22日

那須塩原市議会議長 吉成伸一様

那須塩原クラブ

議席番号 10番 佐藤 一則



会派代表質問通告書

令和 元年第3回那須塩原市議会定例会における会派代表質問を下記のとおり通告します。

記

質問事項	質問の内容(詳細に)
1. やさしいまち、にぎわう まち、元気なまちの創造 について	平成20(2008)年に始まった日本の人口減少は、今後若年人口の減少と老年人口の増加を伴いながら加速度的に進行し、2040年代には毎年100万人程度の減少スピードになると推計されています。特に生産年齢人口の減少による経済規模の縮小、高齢者の増加による社会保障費の増加など、人口減少は社会にも大きな影響を及ぼすことになり、「危機的状況」であると言えます。本市の人口は国立社会保障・人口問題研究所が平成25(2013)年3月に公表した推計によると、平成27(2015)年をピークに減少に転じるとされていました。しかし、その推計よりも人口減少が早まっています。さらに、その後も減少が続く予測となっています。年齢3区分別の人口を見ると、生産年齢人口(15～64歳)は平成17(2005)年をピークに減少傾向に転じています。また、この年に老年人口(65歳以上)と年少人口(0～14歳)の逆転が始まっています。今後老年人口は増加し続け、令和22(2040)年には市全体の約35%が65歳以上となり、生産年齢人口約1.52人で1人の老年人口を支えることとなります。日本全体の問題となっている少子高齢化の流れの中で、地方においては働き手・担い手である若者の減少や地域の賑わいの喪失などの問題が顕著になっており、自治体が定住促進を図ることは共通の大きな課題となっております。定住促進のためには、自治体が置かれている状況を十分に把握し、状況にあった独自の施策を展開すること、そして自治体を持つそれぞれの個性を

質 問 事 項	質 問 の 内 容 (詳 細 に)
	<p>明確にすることが重要となってきます。本市は首都東京から 150 k m 圏に位置しています。新幹線を利用すれば東京駅から那須塩原駅まで 70 分、また高速自動車道のインターチェンジが 2 か所あり、交通の要衝となっています。アユの宝庫で関東随一の清流として知られる那珂川。美しい塩原溪谷を形成しながら塩原地区を南東に流れる箒川。開湯 1200 年以上の歴史を持ち、尾崎紅葉など文人墨客に愛された塩原温泉郷。「下野の薬湯」と称される板室温泉。わずか 140 年前まで人の住めない荒野が広がっていた日本最大の扇状地「那須野が原」。明治政府の中枢にあった貴族階級は、この地に私財を投じ大規模農場の経営に乗り出します。その遺志は長い闘いを経て、那須連山を背景に広がる豊饒の大地に結実し、「明治期の華族農場を中心とする那須野が原開拓の歴史」をストーリーとしてまとめ、明治貴族が描いた未来～那須野が原開拓浪漫譚～のタイトルで平成 30 年 5 月日本遺産に認定されました。塩原、板室、黒磯、西那須野、高林、東那須野、関谷、鍋掛。そのどこからの那須連山の眺望は人々を魅了して止みません。2019 年 5 月 1 日に皇太子徳仁親王様が新天皇に即位され令和への歴史の幕が開きました。本市においても、4 月 22 日多くの市民の支持を得て、平成 25 年第 23 回参議院議員通常選挙で全国最年少当選し、財務大臣政務官を歴任された渡辺美知太郎新市長が誕生しました。その政治手腕に「ワクワク・ドキドキ」していることから以下についてお伺いします。</p>
	(1)人を創る～人にやさしく、幸せに暮らせるまち～について
	(2)安心を創る～人が輝き、楽しく、健やかなまち～について
	(3)まちを創る～県北の中心都市として活気溢れるまち～について
	(4)産業を創る～人が元気に働き活気がみなぎるまち～について
	(5)未来を創る～人を育み、未来に羽ばたくまち～について

質 問 事 項	質 問 の 内 容 (詳 細 に)
2. 那須塩原駅周辺の	市長は、5月臨時会の挨拶の中で、「那須塩原駅周辺におけるまちづ
まちづくりについて	くりのビジョンを明らかにし、民間の活性化につながる駅周辺の再
	整備と共に、市役所新庁舎の建設に努めます。」と述べられました。
	新庁舎建設に関する主な経過は、平成15年に黒磯市・西那須野町・
	塩原町合併協議会において、将来の新庁舎の位置は、那須塩原駅周
	辺とすることを確認されました。平成19年に那須塩原市新庁舎整備
	基金条例を制定し、新庁舎建設に関する基金の積立を開始しました。
	平成24年東日本大震災に起因する東京電力福島第1原子力発電所の
	事故により、喫緊の課題である放射能対策を最優先に取り組むこと
	とし、新庁舎建設の検討を一時延期しました。平成28年に東京オリ
	ンピック・パラリンピックなどの影響により、建築費等の高騰が伝
	えられていること、また、合併特例債の発行可能期間も平成36年度
	まで延長されたことを踏まえ、東京オリンピック・パラリンピック
	以降に建設時期を延期することが適当であると判断されました。平
	成29年に合併特例債の発行可能期間を見据えると、東京オリンピッ
	ク・パラリンピック以降、速やかに建設工事に着手する必要がある
	ことから、庁内検討組織を立ち上げ、新庁舎建設基本計画の策定に
	向けた検討が再開されました。平成30年4月に企画部企画政策課内
	に庁舎準備室を設置するとともに、那須塩原市庁舎建設市民検討懇
	談会を立ち上げ、基本計画の策定に向けた本格的な検討を再開しま
	した。平成31年にパブリックコメントや市民アンケートの結果や市
	議会からの提案事項を踏まえ、那須塩原市新庁舎建設基本計画が策
	定されましたので以下についてお伺いします。
	(1)那須塩原駅周辺のまちづくりビジョンをどのように明らかに
	していくのか
	(2)民間の活性化につながる駅周辺の再整備の考え方について
	(3)新庁舎の建設は、どのように進めていくのか

受付番号	令和元年 5月23日
第 2 号	午前 3 時 00分受付 午後

令和 元年 5月23日

那須塩原市議会議長 吉成 伸一

様

会派名 公明クラブ

議席番号 4番 田村 正宏



会 派 代 表 質 問 通 告 書

令和元年第3回那須塩原市議会定例会における会派代表質問を下記のとおり通告します。

記

質 問 事 項	質 問 の 内 容 (詳 細 に)
1、新時代に要請されるスマート自治体への転換について	折しも、新時代令和の到来に合わせて渡辺市政がスタートしました。渡辺市長の掲げる「5つの創る」実現には大いに期待するところでもあります。しかし、この令和の時代は高齢化がピークを迎える2040年頃にかけて様々な内政上の課題が次々と顕在化する時代でもあります。先頃の、今後の行政のあり方を検討してきた総務省傘下の「自治体戦略2040 構想研究会」の提言には、人口減少により2040年には今の半数の公務員で行政を支える必要があるとのショッキングな報告もなされています。しかし、地域の状況は千差万別であり、地域の行政機能やサービスのあり方は、あくまで自治体自身が、地域特性や住民ニーズを踏まえた上で考えていくものでありますが、予想をはるかに超えるイノベーションの進歩に伴う時代の変化を目の当たりにすると、改めて、未来の状況を予測してそこから今何が必要かを考える「バックキャスト」の発想で検証を実施する必要があるのではないのでしょうか。特に、本市としてのビッグイベントである新庁舎建設については、基本計画が策定され建設に向けた具体的な方向性が示されたところではありますが、更なる民意の反映と英知の結集により、より持続

質 問 事 項	質 問 の 内 容 (詳 細 に)
	<p>可能性の高いものを目指す必要があると思います。いずれにしても、人口減・高齢化などの「静かなる有事」の進行に伴う日本の社会構造の変化を見据えた市政運営のため以下の事柄について伺います。</p>
	<p>(1) スマート自治体構築のために必須とされる破壊的技術であるAI・RPA (ロボティック・プロセス・オートメーション)などの導入についての考えは</p>
	<p>(2) 複数自治体同士の協議により様式・業務手順を統一、標準化する自治体クラウドの導入についての考えは</p>
	<p>(3) 時代の要請により、本市も今後スマート自治体への転換を余儀なくされると思うが、未来の状況を予測した時、新庁舎建設基本計画を見直す考えは</p>
	<p>(4) スマート自治体への転換が要請される中、3月議会で可決された「那須塩原市電子市役所計画」を見直す考えは</p>
<p>2、スクールロイヤー導入について</p>	<p>いじめや保護者への対応など、学校で起きる問題の解決へ法的なアドバイスを行う弁護士「スクールロイヤー」が注目を集めています。現在の学校は、教員の力だけでは対応が難しい問題が増え、学校側が客観性や中立性を保ち問題の対応に当たるには、弁護士の支援は非常に有効であるといわれています。教員の精神的、物理的な負担も軽減されることになり、子供と向き合う時間が増え、教育現場がより充実することが期待されることから以下の事柄について伺います。</p> <p>(1) 本市の学校現場における、法的な助言を必要とするトラブルの現状について</p> <p>(2) 「スクールロイヤー」導入の考えは</p>

受付番号	令和元年 5月27日
第3号	午前 9時00分受付 午後

令和元年 5月27日

那須塩原市議会議長 吉成伸一様

会派名 敬清会

議席番号 20番 相馬義一



会派代表質問通告書

令和元年第3回那須塩原市議会定例会における会派代表質問を下記のとおり通告します。

記

質問事項	質問の内容(詳細に)
1、渡辺市長の市政運営方針について	<p>渡辺市長は、本年4月21日に実施された那須塩原市長選挙において、「共につくろう那須塩原市の未来」をスローガンに新時代のまちづくりを「人を創る・安心を創る・まちを創る・産業を創る・未来を創る」の5つの創るを掲げ、36歳の若さで那須塩原市4代目の市長となりました。現職の参議院議員でありながらも本市の若手の方々をはじめ多くの市民より渡辺美知太郎市長待望があり、それに応えて4月8日に出馬を決意してわずか2週間での当選でした。このことは市民が新しい視点と風を期待していることと感じます。</p> <p>市長は、平成25年に参議院通常選挙において全国最年少で当選され、総務委員会委員・環境委員会委員・財政金融委員会委員、また、東日本大震災復興特別委員会委員・災害対策特別委員会委員等を歴任し平成30年10月には財務大臣政務官に就任されるなど、今後、国会議員として益々ご活躍を期待されていたことと思います。そして、祖父は、那須野が原の発展において誰もが名前を挙げる政治家渡辺美智雄元代議士で、その血筋を受け継いでおられます。</p>

質 問 事 項	質 問 の 内 容 (詳 細 に)
	<p>平成の時代、日本は初めて戦争の無かった時代でもありましたが、自然災害が多く発生し、バブル経済が崩壊するなど、経済は長期低迷の時代でもあり、また、少子高齢化により人口減少が進んだ時代でした。</p>
	<p>新時代令和が始まりました。渡辺市長には、これまでの国会活動で培った政治手腕と人脈を活かして、公約に挙げた5つの創るを確実に遂行し、那須塩原市の未来を明治初期よりこの地に入植し未来を夢見た先人たちの思いと同じく、どきどきわくわくするまちづくりを望むところから以下の点についてお伺いします。</p>
	<p>(1) 那須塩原駅周辺再整備について</p>
	<p>①まちづくりに新庁舎はどのような位置づけになるのか、また、どのように進めていくのか伺います。</p>
	<p>②新たにグランドデザインを創る考えはあるのか伺います。</p>
	<p>③東那須野東通り (3・3・4号線)・黒磯那須北線 (3・3・2号線)・国道4号線の県道・国道の整備についての対応について伺います。</p>
	<p>(2) まちなか交流センターと (仮称) 駅前図書館は黒磯駅周辺の活性化に繋がるのか伺います。</p>
	<p>(3) 那須高林産業団地・那須塩原駅周辺への企業誘致をするにあたりどのような取組をするのか伺います。</p>
	<p>(4) 市長公約を推進するにあたり、平成31年度当初予算で対応できるのか伺います。</p>
	<p>(5) 先日、片山さつき内閣府特命担当大臣が来庁された経緯について伺います。</p>

受付番号	令和元年5月27日
第4号	午前 11時30分受付 午後

令和元年 5月 27日

那須塩原市議会議長 吉成 伸一 様

会派名 志 絆 の 会

議席番号 18 番

眞 壁 俊 郎



会 派 代 表 質 問 通 告 書

令和元年第3回那須塩原市議会定例会における会派代表質問を下記のとおり通告します。

記

質 問 事 項	質 問 の 内 容 (詳 細 に)
1. 市長の市政運営について	<p>渡辺市長は、那須塩原市長選挙において、令和の時代にふさわしい新しいまちづくりを訴え、多くの市民の皆さまから36歳という若さの可能性を期待されて、那須塩原市の市政運営を任されました。先の臨時議会においては、初心を忘れることなく、公約の実現と着実な市政運営を図り、市民の皆様とともに、那須塩原市の発展に向けて全身全霊を傾けて取り組むと力強い発言を致しました。那須塩原市発展のため大いに活躍されることを期待致します。目指すべき市政運営の基本理念として5つの創る。「人を創る」「安心を創る」「まちを創る」「産業を創る」「未来を創る」を掲げ市政運営に当たることから伺うものです。</p> <p>(1) 那須塩原市の現状について伺う。</p> <p>(2) 令和の時代にふさわしい新しいまちづくりについて伺う。</p> <p>(3) 「人を創る」の教育や子育て支援、医療や介護などライフステージに合わせた各種施策の充実と連携強化について伺う。</p> <p>(4) 「安心を創る」の自治会機能のより一層の充実と自主防災組織と消防力の強化について伺う。</p> <p>(5) 「まちを創る」の東那須野東通り、黒磯那須北線、国道4号</p>

質 問 事 項	質 問 の 内 容 (詳 細 に)
	バイパスの整備について伺う。
	(6)「産業を創る」のサテライトオフィス、テレワークの推進について伺う。
	(7)「未来を創る」の本市の魅力を市内外に向けて積極的に情報発信し、さらなる移住・定住の促進について伺う。
2. 新庁舎建設について	<p>新庁舎建設については、平成26年に庁舎建設市民検討懇談会や庁内検討組織を設置し、新庁舎に関する調査や研究を本格的に開始しました。市民アンケート結果やパブリックコメント、市議会からの提言事項等を踏まえ、平成27年3月に、新庁舎建設基本構想を策定し、新庁舎建設基本計画の策定に向けた検討を開始しました。そのような中で、市長の交代により、平成28年3月25日の第10回庁舎建設市民検討懇談会において、新庁舎建設時期については、東京オリンピック・パラリンピック等の影響による資材の高騰や合併特例債の発行可能期間の延長などを踏まえ、東京オリンピック・パラリンピック以降に延期することが適当であると判断し、検討を中断しました。その後、平成29年に入って、県北の中心都市にふさわしい拠点づくりや合併特例債の発行可能期間を見据えると、東京オリンピック・パラリンピック以降速やかに、建設工事を着手する必要があることから、新庁舎建設基本計画の策定に向けた検討を再開し、平成31年3月に新庁舎建設基本計画を作成し、令和5年新庁舎開庁に向け進んでいます。</p> <p>市長の新庁舎建設に対する考えについて伺う。</p>